

派遣国	ベトナム	派遣都市	ダナン
出国年月日	2018年8月4日	帰国年月日	2018年9月1日
法政大学との共催団体名（受入団体名）	FPT 大学		
主な活動内容	インターンシップ		

1. 活動内容

Sheraton Grand Danang Resort にて1カ月のインターンシップに参加しました。

主な活動内容については、ゲストの welcome 対応、お部屋までのご案内、ゲスト向けメニューの日本語訳、日本人ゲストのトラブル仲介、観光スポットの紹介などでした。

2. 特筆すべきエピソード

1カ月のインターンシップの経験を通して私が一番思い出深く感じていることは、日本人ゲストとの出会いです。言葉がうまく通じない土地でトラブルなど抱えているお客様に寄り添って解決策を模索する事が多くあったのですが、一度だけ日本人ゲストが納得いかないまま、チェックアウトの時間が来てしまったことです。私は、出勤時間外だったのですが、マネージャーから電話できてほしいとのことでホテルによる向かうことができました。ゲストがフロントで預けたフロートが破れてしまっていたということです。ホテル側は、私が通訳で仲介に入った後も一向に弁償する姿勢を取らず、ファイブスターホテルなのにと驚きと疑問でいっぱいでした。最後の最後まで話し合いをしたのですが、何も進まずゲストの出発時間になってしまいました。最後にゲストに謝罪をしたときに、インターン生で海外で大変な事もたくさんあるだろうにここまで私たちのためにしてくれてありがとう、言っていたら、最後に写真まで一緒に取ろうと言っていたら、初めてここまで頑張ってくれたと、嬉しさがこみ上げてきました。まだまだ経験不足だな、と感じると同時に日本人の温かさと、文化の違いを大きく学んだ出来事でした。今でも沢山の日本人ゲストの方と連絡を取っています。この出会いはわたしにとって大きな宝物です。また、インターンシップ生として台湾から来ていた Amber と Winnie という名前の2人の女の子と出会いました。同じインターンシップ生としてなにかあればサポートしあい、仕事が終われば一緒に夜ご飯を食べたり、お休みの日は一緒に出掛けたりなど、カルチャーエクステンジを多くの状況することができました。今でも2人とは、連絡を取り続けていて、インターンシップ後に台湾へ会いに行きました。これからも定期的に会えるような大事な友達に出会うことができました。経験をシェアし、苦難を一緒にのりこえられたからこそこの1カ月という短い期間で仲良くなることができたのだなと感じています。

3. 苦労したこと

苦労は、インターンシップ中にもインターンシップ外でも数えきれないほどありました。

言葉の壁は、たとえ英語が話せる人を相手にしてもベトナム特有のなまりがあり、聞き取るのに大変でした。同僚と話すときでもなかなか1発で理解してもらうのが難しかったです。毎日お昼にあるブリーフィングでは、インターン生のために英語で、報告書を全部話してくれたのですが、殆ど理解できないことが多かったです。

ベトナムについてから初めての苦労は到着3時間後のことです。バディと夕食を終え、ホームステイ先に向かうとホストファミリーが外出中で1時間弱家の前で待ちぼうけするということがありました。同じインターンシッププログラムに参加していた石鍋さんも同じホームステイ先だったのですがようやく部屋に

案内されると英語が話せず、ベッドは一つ、ブランケット、枕も一つ、シャワーは日本では考えられないような作りになっていて水も飲めずこれは、おかしいと感じ、バディに連絡して夜中にようやく急遽 FPT 大学の寮に移りましたその他にもプログラム表として渡されたスケジュールとは、異なる事があったり、寮ではお金を盗まれ、バディに相談したら警察沙汰になり、被害者のはずが、ベトナム人への名誉棄損で国外追放すると言われ日本領事館に連絡されそうになるなど、日本で起きてても大変に感じる事が、海外で、英語で解決しなくてはならないという状況がとても大変でした。ですが、海外での長期滞在にトラブルはつきものだと思います。国外追放に関して今までで最大のトラブルでしたが、この経験は今後の海外生活で大きな糧になると感じています。

4. 身に付いたこと

初めてのインターンシップを海外で行うという未知の世界でした。もともと、日本でも海外でも様々なパートタイムジョブは働いていた経験があるものの、一社会人として、会社で働くというのはとても新鮮でした。アルバイトとはまったく違った責任感を感じるとともに、一従業員としてしっかりとタスクを与えられて一つ一つ終わるごとに達成感をつよく感じました。

インターンシップ外では、日本人は外国人に控えめでなんでも OK と答える印象を強く持たれているというのは、日本人に聞いても外国人に聞いても同意すると思います。そんな中でいかに自分の要望をはっきりと伝えられるかという場面が多くありました。自分の意思をしっかりと伝え、理解してもらい、理解する、ということは、わたしにとって一番身についたスキルだと感じています。

5. 今回の経験を経て感じる「グローバル人材」像とは何か

私の考えるグローバル人材とは、国によってそれぞれ人々のバックグラウンドが違う中、どんな相手でも文化の違いを尊重し、その場その場の環境に適応するという事です。それぞれの国にステレオタイプというものがあり、少なからず初対面の相手の国籍を聞いて連想してしまうことが多いかと思います。ですが、いいところはいいところで各々の長所を発揮し、短所に関してはステレオタイプにとらわれず活発に活動していく人だと思います。

失敗やトラブルをおそれず新しいことをためらいなく挑戦していける人、どんな違いも理解し、受け入れる事ができる人が今後のグローバル社会で活躍できると信じています。

6. 後輩へのメッセージ

大学のプログラムだから安心、と感じて応募する人が多いと思います。わたしも最初はそう考えていました。ですが、自分のことは自分で守らなきゃいけないし、口に出さないと、助けなんてものはありません。このような経験、インターンシップを通して、海外で働くという事、社会人として働く責任感など沢山のことを職場で学びましたが、一番強く成長できたなと感じる点は社会で生き抜く実践力です。田中優子学長が入学式でお話ししていた中の言葉ですが、この言葉がぴったりだと感じています。普段日本で生活していると、両親のサポートが大きく、大学に行き、アルバイトをして、家に帰る、といった治安もよく夜中に帰ってもご飯を食べても食中毒を起こすことなんてないといったセキュリティの確保された、守られた生活をしていると思います。ですが、海外に一人で出れば未知の世界です。責任感や自立心を多く培える一カ月だと感じています。トラブルは沢山ありましたが、素敵な出会い、沢山のスキルを身につけて帰ってこれたので全く後悔はしていません。参加を考えている方、ぜひ頑張ってください！

7. 写真



インターンシップ先の企業



石鍋さんとインターンシップ先の2人